

Q4 指導すべきこと(困り)が多すぎて、何からしたら良いか分かりません。



特別支援学級担任

指導すべきことが多すぎます。実態の中での優先順位をどうつけなければならないのでしょうか。



通級指導教室担当

在籍学級の先生から、たくさんの課題を聞きましました。何にしぼるか難しさを感じています。



特別支援学級担任

たくさんある困りから優先順位を付けて指導していますが、毎年同じ内容を繰り返しているような感じがします。

A これまでの学習状況や将来の可能性を見通しながら、長期的及び短期的な観点から指導すること(中心的な課題)を決めます。

たくさんある指導すべきこと(困り)をよく分析すると、「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」などに分類できます。

例えば、「もう少しでできること」のうち、その困りが改善されると発達が促され、他の困りの改善にもつながっていくものを、まず指導するということが考えられます。

また、「援助があればできること」のうち、児童生徒の障がいの状態等を踏まえれば現状を維持していくことが妥当であるものや、「できないこと」のうち、数年間指導を継続してきたにも関わらず習得につながる変化が見られないものなどは、指導すべき対象から外してみるということなども考えられます。また、現在の姿から数年後や卒業後に目指す姿との関連が弱い課題を指導すべき対象から除いていく考え方もありますし、逆に、現在困っていないくても、数年後の姿を想定すると、必要な課題が出る場合もあります。

一方、指導すべきことは単独で生じている場合も考えられますが、相互に関連している場合もあります。関連の仕方には、原因と結果の関係、相互に関連し合う関係などが見られます。

このような視点で多くの指導すべきことを整理すると、今年度、指導することが決まっていきます。「流れ図」の手順では、課題の抽出(③)と中心的な課題を導き出す(④)段階で検討することになります。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編のP.108~110により詳しく解説されています。



文部科学省
「特別支援学校教育要領・
学習指導要領解説自立活動
編」

